

国鉄とJR 車両の進化とSuicaとサバ
「国鉄解体」と瀬島龍三

青木理×桐野夏生の安倍論
星野源の新連載スタート

AERA

昭和63年6月10日第3種郵便物認可
2017年4月10日発行
毎週月曜日発行(4月3日発売)
通巻1616号

'17.4.10

No.17

定価 390円

アエラ

俳優

スカーレット・
ヨハンソン

国鉄とJR
「大特集」





photo 朝日新聞社

contents — 1

<p>大特集</p> <p>新ビジネス</p> <p>電車</p> <p>明暗</p> <p>労働</p> <p>証言</p> <p>政治</p> <p>聖地</p> <p>博物館</p> <p>時代を読む</p>	<p>JR30年</p> <p>「脱鉄」ビジネスに発車オーライ</p> <p>東日本 Suica世界デビュー 西日本「お嬢サバ」鳥取で養殖 九州 九大跡地再開発……10</p> <p>電車の進化に加速前進</p> <p>東日本 209系「寿命も重量も価格も半分」 西日本 323系「安全第一」……13</p> <p>リニアで新幹線一本足打法から転換 JR東海の「複線化」……17</p> <p>JR北海道・四国・貨物のジリ貧……19</p> <p>国鉄解体はリストラの原点</p> <p>「カレチ」モデルの元国鉄マンが語る現場／「根こそぎやれ」瀬島龍三氏の一言で総裁更迭……22</p> <p>JR東日本元会長が直言「鉄道なくなる危機感あった」……25</p> <p>【乗り鉄・石破茂】国鉄赤字は政治が悪い……26</p> <p>【撮り鉄・前原誠司】超党派で鉄道支える……27</p> <p>今も日本人の心に国鉄は生きている</p> <p>テツの聖地「書泉グランデ6階」／昭和天皇お召し列車で18万キロ旅した／いすみ鉄道……28</p> <p>大人もはまる 3大鉄道博物館の魅力……42</p> <p>【対談】青木理×桐野夏生 安倍政権と連合赤軍事件を語る……30</p>
---	--

eyes 393 内田 樹



文明と自然の狭間で 若者たちの新しい波が

神戸で凱風館という合気道の道場を開いている。そこで週に1度「寺子屋ゼミ」を開講している。道場の畳に座卓を並べて、社会人や学生たちを集めて、さまざまな問題を語り合っている。先日今期が終わり、ゼミのあと打ち上げ宴会があった。その席で一人の男子学生が私の前に座った。県内で農業をしているゼミ生が連れてきた人である。大学を休学して、農業を勉強しているという。誰に誘われたわけでもなく、「これからは農業だ」と思い立って昨秋から大学を休んで農家の手伝いをしていっている。今はそのゼミ生のシェアハウスに住んで、手伝いをしていっているが、いずれ自分でも畑を借りるつもりだと言う。「親御さんはどう言っているの？」と訊いたら「それで食べるのか？」と心配してました」と笑った。

新しい波が来ているのだと思う。何か月もリクルートスーツを着込んで、胃の痛むような就職活動をしたあげくに残業100時間のブラック企業に勤務する……というような未来予測にあまり魅力を感じられなくなった若者たちが「別の生き方」を模索し始めているのである。その中に、過疎化しつつある地方で第1次産業を継承するという選択肢もある。

確かに金にはならないだろう。けれども、文明と自然のインターフェースに立ち、自然からの贈与を人間社会に有用なものに変換する仕事には、人間の根源に触れる何かがある。うまく説明できないけれど、そのような場では、たぶん都市とは違う時間が流れているのだと思う。人工的な環境にいる限り決して発動することのない脳内部位が活性化し、それまで使うことになかった知覚が働きます。自分の身体が豊かな、手つかずの埋蔵資源で満たされていることに気づく。農業の現場では、そういうことが起きているのだと思う。自分自身の豊かさに気づくことのほうが、現金収入の多寡よりもたいせつだと彼らは（そういう言葉づかいはいらないだろうが）直感したのだと思う。

周防大島で、鶴岡で、朝来で、あちこちで農業のうちに可能性を見いだして、都市生活を離れた若者たちと出会う。彼らの上に豊かな祝福と加護がありますように。

この欄は委中さんと交互に執筆します。



contents — 2

映画	押井守が見た「ゴースト・イン・ザ・シェル」 ……………33
	『攻殻機動隊』は研究者たちの必読書 光学迷彩、反応するロボット、サイボーグの義手／「人間の拡張」ここまで来た……………35
	自閉症の少年がアニメで「言葉」を取り戻した ……………38
アート	河鍋暁斎 見いだされた奇才に会いに行く ……………47
	北が瀬戸際を越える時
北朝鮮	核ミサイル被害想定 「東京都心着弾で42万人が死亡」 ……………56
政治	森友学園問題の解明阻む官邸の不誠実 ……………58
米国	ロシアゲートでしばむトランプ幻想 ……………60
社会	「格安航空券」もう買えない？ てるみくらぶ倒産でわかった業界事情 ……………61
スポーツ	稀勢の里は「貴乃花」になれるか ……………62
文化	テレ東深夜アニメ「けものフレンズ」で脱力する人びと ……………63
表紙の人	スカーレット・ヨハンソン・俳優……………9
現代の肖像	森川 亮 ・C Channel社長／上阪 徹……………48
AERA-note	編集長敬白……………64

好評連載

- 5 eyes 内田 樹
- 7 浜 矩子
- 54 佐藤 優の実践ニュース塾
- 55 ぐっちゃんさんの
ここだけの話
小島慶子の
幸福のスメ！
- 65 オチビサン 安野百葉子
- 71 星野 源
ふたりきりで話そう [新連載]
- 72 武藤嘉紀
職業、ブンデスリーガー
- 74 師匠と弟子 [新連載]
奥田染工場
- 76 はたらく夫婦カンケイ
伊藤まさこの
おいしい時間をあの人へ

AERIAL

- 66 アエラ 吉田 豪 評
読書部 「無冠の男
松方弘樹伝」
この人のこの本
榎本一子
岡崎武志の
読書days
- 68 玉塚元一の
キャプテンのテイクノート
福岡伸一の
生命探検
稲垣えみ子の
アフロ画報
- 70 ジェーン・スーの
先日、お目に掛かりまして
厚切りジェイソンの
厚切りビジネス英語

フォトグラファー(表紙) 蛭川実花

アートディレクター 福島源之助

デザイナー 原 雄一／羽多野一造／内藤真理／
根本勝子／高 理子／森田 直／
永井健太郎

チャートデザイナー 枝常暢子 岡山憲夫

eyes³⁹⁴ 浜 矩子



海峡の「こっち側と向い側」 新たな関係への門出

ついにその日がやってきた。3月29日、イギリスが欧州連合(EU)からの離脱に関する公式通知を欧州理事会宛てに発信した。EUの基本条約、通称リスボン条約の第50条にのっとり、手続きである。これを受けて、英・EU間の離脱交渉が始まる。

この日が来ることを、筆者は長らく確信していた。リスボン条約が出来上がるはるか前から、いずれイギリスはEUから出て行くだろうと考えていた。1960年代前半、幼き筆者はイギリスに住んでいた。すっかりイギリス人気分になっていた筆者にとって、ドーバー海峡の向こう側は外国だった。自然が違う。家並みが違う。食べ物が違う。空気さえも違う感じだった。そして90年代、今度は大大人として9年弱のイギリス駐在生活を送った。その時、やっぱり大陸欧州は外国だった。川端康成先生への失礼を顧みずにもじらせて頂けば、「国境の長いトンネルを抜けると外側国であった」。

この場合のトンネルは、いわゆる「ユーロトンネル」だ。ドーバー海峡を貫いてイギリスを

大陸欧州と結びつけている。その中を走る列車が「ユーロスター」である。初めて乗った時、まさにトンネルを抜けたら景色が一変していた。イギリス風の雑駁風景が、大陸欧州風の整然風景に変貌していた。イギリス的風景に付き物の羊はいなくなっていた。その代わりに、牛がいた。むろん、世はグローバル時代だから、イギリスと大陸欧州の風景も、60年代に比べれば、かなり済み合ってきてはいる。だが、本質はやっぱり違う。それで大いに結構だと思ふ。だからこそ、面白い。イギリスは、大陸欧州ではないからこそ、大陸欧州にとって良きパートナーでありうるはずだ。

トンネルを抜けても抜けても、同じ風景。これが、一番気持ち悪い。刺激がなくて、知性がない。これが、一番恐ろしい。大いに異なる者たちが、大いに仲良く未永くお付き合いする。この関係を、向こう2年の間にどう探り当てるかだ。技術的には、難題山積みの交渉になる。だが、それでこそ、両者の腕の見せどころだ。海峡トンネルのこっちでも向こうでも、手を差し伸べ合う心意気あらんことを。

この欄は東浩紀さんと交互に執筆します。